

## ハハジマメグロ

ハハジマメグロは、母島とその周辺の島々に生息する小笠原諸島固有の小鳥である。通常、その一生を半径 20 メートル以内で送る。家の裏庭や菜園でよく見られ、島民たちに愛されている。体は丸く、羽の色は黄と緑。目の周りには特徴的な白い輪があり、その輪は黒い三角形に囲まれている。英名、日本名ともにその目の色模様が名前の起源となっており、英名の“white-eye (メジロ科)”は白い輪を、「黒い目」を意味する日本名のメグロは周りを囲んでいる三角形を指している。

島に人間がやって来る以前、ハハジマメグロにはノスリを除いて天敵がいなかったため、人間や土地固有のその他の動物に対して先天的な恐怖心を今も備えていない。そのため、定住者とともに島にやって来たネコやネズミに簡単に捕らえられてしまう。現在、島に生息する野鳥の保護対策が行われており、その結果、すべてのネコには登録が必要となり、通常は屋内で飼われている。

ハハジマメグロは主にアリや昆虫を食べるが、果物も食べる習性があり、地上でも樹上でも食事をすることが確認されている。島に捕食者が持ち込まれるまでは、進化の過程で直面した一番の危険は嵐であった。島に来る台風の強風から最大限身を守るように木の幹近くに巣を作る。このメグロの巣作りの方針は日本の他の地域に生息するメジロとは異なる。メジロは一般的に、ヘビやネズミなどの捕食者から身を守るために枝の先端近くに巣を作るためである。